

うしく里山の会 広報誌

さとやま

No. 43 (2006年9月号)

NPO法人 うしく里山の会

事務局 〒300-1236 牛久市田宮町808-20
TEL 029-801-2500 (代表 坂 弘毅)
E-mail u_satoyama@infoseek.jp
HP <http://u-satoyama.web.infoseek.co.jp/>

小野川探検隊第一回探検交流終る

7月22日（土）小野川探検隊の今年度第一回探検交流が行われました。午前の部は観察の森の自然観察、午後の部は小野川豊年橋下で魚捕り体験が今回の体験学習となりました。しかし、7月は天候不順で、数日前に降った雨で小野川は増水し、川に入ることは危険と判断、結果の農業用水で水辺の生きものの観察となりました。

当日集まったこども達は約40名、指導員として石神園長、久保庭職員、三浦さん、高野さん／横山さんで4班に分かれコジュケイの林からスタートしました。こども達の頭の中はカブトムシやクワガタムシでしたが、指導員の丁寧な解説にしっかりと耳を傾けていました。コジュケイの林ではクワガタムシを発見、バッタの原の入口付近でアブラゼミの羽化を観察などなど、充実した観察会でした。昼前には観察者に全員集合し、小野川の水質（COD・化学的酸素要求量）とカッパの沼の水質を測定し比較しました。当日の小野川は増水で、水流も早く汚れはかなり薄められてしまったようで4mg／㍑と大変良い数値が出ていました。ただしどぶのような臭いは消えませんでした。カッパの沼はやはり4mg／㍑、臭いは全くありませんでした。

（参考：牛久沼のCOD10mg／㍑、琵琶湖3.1mg／㍑、諏訪湖3.6mg／㍑、環境基準値5mg／㍑）

午後は森の裏門から出て、カッパの沼の水が流れている堀に入り、カワニナ、ヤゴ、ドジョウ、ザリガニなどの観察を行い、春日会長（小野川探検隊）、矢野さん（アサザ基金）、向山さん（〃）の指導で水辺の生きものと人間の生活について詳しい説明を受けました。この時点では泥だらけになって夢中で飛び回ることも達の目は爛々と輝いていました。

今年度の第二回探検交流は霞ヶ浦環境科学センターで10月15日に予定されています。 （坂 弘毅記）



小野川探検隊にご参加の皆さん

小さな輝きに魅せられて

プロジェクトからのおたより

里山観察隊★ホタル調査リポート

ホタル調査に入ると天候が気になるようになつた。ヒグラシやニイニイゼミが鳴き始めるとホタルの本番が始まる。

今年は梅雨が長く昼間は暑いのだが、夜は案外涼しかったのではないだろうか。気温は平均 25 度、湿度は 70~80 位で少々汗ばむ程度。祈るような気持ちで現場に行く。7月 25 日の奥原は 150 匹。このくらい出ると、見た！という感じがする。



深い谷津田で、斜面の上は馬の調教場のようになっている。植生・野鳥・昆虫等も豊か。他に4箇所見て廻ったが、カワニナは限られた所にしか居ない。また、その場所によってピークがあり、色々な方法で調べると、違ったことが判るような気がする。



限られた人数と日数では、ほんの一握りしか判らないが、小さな光を放って命をつないでいるのを見ると、ホタルは里山の指標だとつくづく思うのである。林縁に薄暗弱い光が目に入る。クロマドボタルの幼虫である。

参加者の皆さんも大分慣れてきて、ヘイケとクロマドの区別はつくようになったが、草むらなどにいると区別がつきにくい。親は黒で 1 センチほど、前胸の所に窓のような透明な部分があるのでクロマド（しかし親は見つけられない）。カタツムリ、巻貝などを食べる。ヘイケと同じくらいかそれ以上生息しているのではないだろうか。

やはり湿った場所が好きなようだ。湿地の減少が色々影響してくるようです。ホタルが少なくなってくると、鳴く虫が初秋の到来を告げていく季節を駆り立てていくようです。

○次回

9月 9 日（第2土）上柏田。絶滅の恐れのある湿地の植物。小雨決行、雨靴、水、森 P8:30~12:30

9月 12 日（第2火）ムジナの里の植物調査。小雨決行、図鑑、水、ムジナの里 8:30~12:30。

今月の巨木「皇産靈神社のスギ」

毎月「巨木・古木・希少木リサーチ」の対象になった地域の銘木をお伝えします。

樹高 30m
幹周 3.3m
樹齢 推定300年
所在地 牛久市正直町1170-1
皇産靈神社内

スギの名は、まっすぐに（直ぐ木）とか、すくすくと伸びる木の意味からついたといわれています。ヒノキとともに日本の木を代表するスギは、数千年前から天然にもたくさん生育していました。

登呂遺跡からスギ材が出土したり、万葉集では植林を行ったことを歌っています。日本の樹木の中では樹齢かもっとも古く、屋久島では樹齢数千年といわれる縄文杉が現存しています。

(「市民の木案内板より」)



写真撮影：簡晶子

巨木事業からのお知らせ

事業発足来、約4ヶ月経過しましたので、中間報告会を開きます。

(内容)

市指定巨木の撮影画像、巨木計測の途中結果報告。

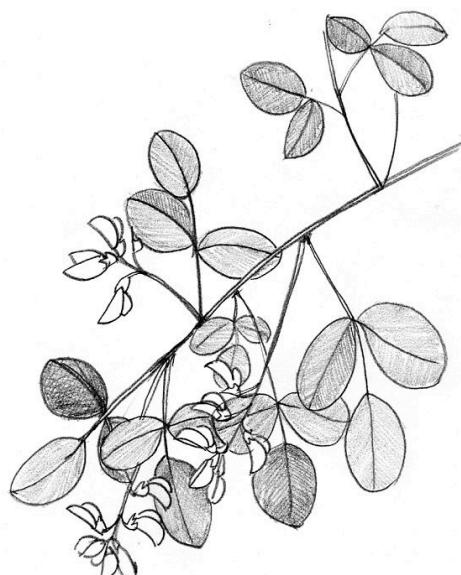
日時：9月23日（土・祝）

AM9時30分～11時30分

場所：牛久市中央生涯学習センター・大講座室

皆さまのご来場をお待ちしています。

巨木事業・総務 増田勝彦



アヤメ園に珍客到来！

今年、三日月橋のアヤメ園は多くの観光客で賑わいました。勿論地元市民の強い期待に応えることが出来たことと、その評判を聞きつけた東京の観光バス会社がアヤメ園ツアー（牛久→佐原→潮来）を企画してくれたことで近年にない多くの人出となりました。現在は静けさが戻り、限りなく続く除草の連続です。今年のアヤメ園はハナショウブの生育が最盛期の状態に戻り、来年は更に期待がもたれるところです。



アヤメ園もう一つの目玉は、園内に新設した「牛久・里の植物園」が完全に根付き市内に残された絶滅危惧種や希少種の野草も観察できる貴重な植物園となつたことです。この中の小さな流れにはメダカが産卵し次々と孵化しています。近くの小学校では総合学習でたびたび訪れる環境学習の重要な拠点となりました。荒廃して廃止も検討されていた「牛久観光アヤメ園」はうしく里山の会の熱意ある取り組みによって見事再生することが出来ました。そして、このアヤメ園に珍客が到来、牛久駅東口広場に居た河童の子供と犬が中央の島に棲みつくことになりました。とても可愛らしい表情でここを訪れる人に癒しを与えてくれることでしょう。（坂 弘毅記）



受託事業「平成18年度牛久自然観察の森指定管理者」中間報告

報告：牛久自然観察の森チーフコーディネーター齊藤孝

指定管理者としての事業開始から約5ヶ月が経過しました。今回は4月～7月までの利用状況についてご報告いたします。入園者数について、以下の数値はバッタ原正門及び梅林入口に設置した入園者カウンター（自動計測器）によるものです。

4月：3637名、5月：4930名、
6月：3633名、7月：3877名

となり、年度の三分の一を経過した時点での総入園者数は16077名となりました。（ちなみに過去16年の牛久自然観察の森年間平均入園者数は約3万人です）この4ヶ月間のガイドツアー等主催行事開催回数は55回、延べ参加人数は1161名でした。また、学校対応数は27回、延べ参加人数は1674名でした。

※写真は上野レンジャーによるガイドツアーの様子



今月の運営会議よりおしらせ

平成 18 年 8 月 20 日

〈議席数 18 名のうち 11 名出席。1/2 以上の出席。〉

1. 会員の通勤途上災害の件

7 月 13 日、アヤメ事業サポートーー 1 名がアヤメ園からの帰宅途中、交通事故に遭い大ケガ（腰椎破裂骨折、全治 3 ヶ月）をされました。皆様方におかれましては、森の行事やプロジェクトの行き帰りなど交通事故にはくれぐれもご注意ください。

2. 牛久市環境フェスタ参加の件

市内で活動する団体として一年間の活動実績や活動内容などをパネル等で展示します。里山観察隊、巨木・古木リサーチ、ありんこクラブ、あやめ園事業は出展を計画中です。展示物の作成や現地での展示についてご協力していただける方は、各プロジェクト代表にご連絡ください。開催日当日は、お誘い合わせの上ぜひご来場ください。

日時：10 月 7 日（土）午前 10 時～午後 3 時

場所：中央生涯学習センター 多目的ホール

3. 巨木リサーチ事業中間報告会を開催します

活動の経過と進捗状況を里山の会員と事業参加者に報告し、相互理解の促進を図ることを主な目的とします。詳細は記事をご覧ください。

日時：9 月 23 日（土）午前 10 時～12 時

場所：中央生涯学習センター 大講座室

牛久自然観察の森園内の禁煙にご協力ください！

観察の森は基本的に火気厳禁となっております。喫煙はネイチャーセンターのベランダでお願いします。（なおプロジェクトや行事での火気の使用は、すべて許可を受けております。）



ありんこくらぶよりお知らせ

雑木林応援隊製牛久産の「炭」登場です！

雑木林応援隊の方々が観察の森の炭窯で焼いた「炭」を協賛金の返礼品にできないかと、ずっと考えていました。やっと形にすることができました。

わたしたちの活動を応援して下さる方に 里山の会のメッセージもと、小さな冊子「炭の話」も付けました。9 月中ごろまではネイチャーセンターのありんこコーナーに並べます。

みなさん、是非御利用下さい。



9月の里山カレンダー

※活動日は都合により変更になる場合がありますので、ホームページ等でご確認ください。

日	月	火	水	木	金	土
					1 ○雑木林畠隊 9:30観察舍畠	2
3 ○巨木古木リサーチ 8:30森P	4 (休園日) ○アヤメ園(受) 9:00アヤメ園P	5	6 ○雑木林畠隊 9:30畠	7 ○アヤメ園(受) 9:00アヤメ園P	8 ○雑木林畠隊 9:30観察舍畠	9 ○里山観察隊 8:30森P (会報等原稿〆切)
10 ○雑木林応援隊 9:00ムジナ	11 (休園日) ○アヤメ園(受) 9:00アヤメ園P	12 ○里山観察隊 8:30森P	13 ○雑木林畠隊 9:30畠	14 ○アヤメ園(受) 9:00アヤメ園P	15 ○雑木林畠隊 9:30観察舍畠	16 ○里山聞き取り 9:30NC
17 ○運営委員会9:00NC ○広報11:00NC	18 ○アヤメ園(受) 9:00アヤメ園P	19 (休園日)	20 (休園日)	21 ○アヤメ園(受) 9:00アヤメ園P ○雑木林畠隊 9:30畠	22 ○雑木林畠隊 9:30観察舍畠	23 ○巨木古木リサーチ 10:00中央生涯学習 センター (中間報告会)
24 ○雑木林応援隊 9:00炭小屋	25 (休園日) ○アヤメ園(受) 9:00アヤメ園P	26 (休園日)	27 ○雑木林畠隊 9:30畠 会報発送予定	28	29 ○雑木林畠隊 9:30観察舍畠	30 ○アヤメ園(受) 9:00アヤメ園P

森：観察の森、 NC：観察の森ネイチャーセンター、 (受)：受託事業、 P：駐車場、 (休園日)：観察の森休園日

会報原稿募集中！

会報「さとやま」の原稿を募集しています。各プロジェクトや特別事業からの報告、「さとやま」にふさわしい情報などをお送りください。

原稿は400字詰め原稿用紙2枚(A5)、または4枚(A4)の分量をお願いします。テキスト(手書き可)をメール、または郵送でお送りください。写真がある場合はプリントまたは画像ファイルもお送りください。(写真を含む記事はそのぶん文字数を減らしてください。) 記事送り先は下記です！

牛久自然観察の森 久保庭敦男

メール skyranger-mori@u-satoyama.jp

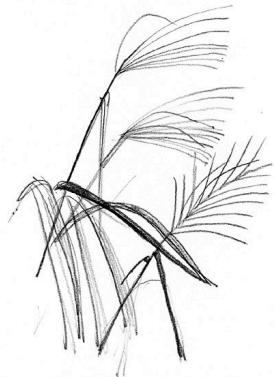
300-1212

牛久市結束町489-1 牛久自然観察の森

編集後記

〇〇の秋です！

みなさんは、「〇〇の秋」という言葉を聞くと、何を連想されますか？私は、紅葉・実り・旅行でしょうか。紅葉の美しい所へ出かけて行って、美味しいものをたくさん食べてみたいですね！



「秋は夕暮れ」が一番美しいと言われます。夕焼けを見ながらヒグラシの声を聴いていると、しみじみと落ち着いた気持ちになるのを感じます。

(記 安村)

次号（10月号）の印刷発行は9月27日頃を予定しています。お手伝いいただける方を随時募集しています！編集担当者にご連絡ください。よろしくお願ひします。

会報さとやま 2006年9月号（発行・NPO法人うしく里山の会）

事務局 300-1236 茨城県牛久市田宮町808-20 電話029-801-2500（代表 坂弘毅）